



曾4  
775  
294

大正三三一世  
中村植雄  
贈



今昔一糸沈り堂乃江鮮なる也然

世河お天原成常流勢も也然りつととあ是上湯

人乃春乃始くもとと年とあうはたては

細くよぬらうくとあくと浅きくくあはれ然く

細くく申あともなるるはれは細乃のり火之

とそむりりつたそんがそく光さうくよあまの

梅乃んくくひうりふせりも気と今ましく知る

り分も春乃よふらうくと詠は也然

ははこらうま来らん人とのあしあ梅は

日たて流ううと世河成はかりもと世流

ららんぬぬおくおと下り春は流たては

是ハ如流を以本下りうらうと親乃第と枕





いふふ見むとわふる名のぬの月おれはあまの  
あつせぬなるもいひくあつせぬはむすふあつ  
あるかつらうらむうせ行ねんのもせし

あつせぬなるもいひくあつせぬはむすふあつ  
あるかつらうらむうせ行ねんのもせし  
いふふ見むとわふる名のぬの月おれはあまの  
あつせぬなるもいひくあつせぬはむすふあつ  
あるかつらうらむうせ行ねんのもせし

松風の色やえりうらみ深き地ふふのあまの

あまのあつせぬなるもいひくあつせぬはむすふあつ  
あるかつらうらむうせ行ねんのもせし  
いふふ見むとわふる名のぬの月おれはあまの  
あつせぬなるもいひくあつせぬはむすふあつ  
あるかつらうらむうせ行ねんのもせし

あまのあつせぬなるもいひくあつせぬはむすふあつ  
あるかつらうらむうせ行ねんのもせし  
いふふ見むとわふる名のぬの月おれはあまの  
あつせぬなるもいひくあつせぬはむすふあつ  
あるかつらうらむうせ行ねんのもせし

こそおひりてあそびをばせしむるに成るるに  
 うとなくおちりし御いりかど月と海あててふお  
 りらりせんしあはれしむるに成るるに  
 東家のあそびしむるに成るるに  
 西家のあそびしむるに成るるに  
 南家のあそびしむるに成るるに  
 北家のあそびしむるに成るるに  
 東家のあそびしむるに成るるに  
 西家のあそびしむるに成るるに  
 南家のあそびしむるに成るるに  
 北家のあそびしむるに成るるに

東家のあそびしむるに成るるに  
 西家のあそびしむるに成るるに  
 南家のあそびしむるに成るるに  
 北家のあそびしむるに成るるに  
 東家のあそびしむるに成るるに  
 西家のあそびしむるに成るるに  
 南家のあそびしむるに成るるに  
 北家のあそびしむるに成るるに

東家のあそびしむるに成るるに

東家のあそびしむるに成るるに  
 西家のあそびしむるに成るるに  
 南家のあそびしむるに成るるに  
 北家のあそびしむるに成るるに  
 東家のあそびしむるに成るるに  
 西家のあそびしむるに成るるに  
 南家のあそびしむるに成るるに  
 北家のあそびしむるに成るるに  
 東家のあそびしむるに成るるに  
 西家のあそびしむるに成るるに  
 南家のあそびしむるに成るるに  
 北家のあそびしむるに成るるに

まてまの指をくゑてけりやもふはひつひとして侍  
りゆきを布衣の糸くもみ洗ゆ一筆の死らとてみく  
物にの浪の雲とあふなるあつしりうとてしりる  
白雲はあきらりとある海はひのむらうにちぬあなひ  
はぢも布衣ぬ神の清浄一也むらうにぬあくんとく  
もてくしりていへ  
まてまの指をくゑてけりやもふはひつひとして侍  
りゆきを布衣の糸くもみ洗ゆ一筆の死らとてみく  
物にの浪の雲とあふなるあつしりうとてしりる  
白雲はあきらりとある海はひのむらうにちぬあなひ  
はぢも布衣ぬ神の清浄一也むらうにぬあくんとく  
もてくしりていへ  
まてまの指をくゑてけりやもふはひつひとして侍  
りゆきを布衣の糸くもみ洗ゆ一筆の死らとてみく  
物にの浪の雲とあふなるあつしりうとてしりる  
白雲はあきらりとある海はひのむらうにちぬあなひ  
はぢも布衣ぬ神の清浄一也むらうにぬあくんとく  
もてくしりていへ

けり病のよそへせんしりるの目もたていしりる  
けり病のよそへせんしりるの目もたていしりる  
今を若んあもしりせんしりるの目もたていしりる  
こらりてめしてしりるの目もたていしりる  
定ねぬたてをせぬ

ひるを標よりたてぬるを標とてしりるの目もたていしりる  
けり病のよそへせんしりるの目もたていしりる  
今を若んあもしりせんしりるの目もたていしりる  
こらりてめしてしりるの目もたていしりる  
定ねぬたてをせぬ  
ひるを標よりたてぬるを標とてしりるの目もたていしりる  
けり病のよそへせんしりるの目もたていしりる  
今を若んあもしりせんしりるの目もたていしりる  
こらりてめしてしりるの目もたていしりる  
定ねぬたてをせぬ

今もいふに思ひしにふりかへりて  
よもあはれにさしあはれをさしあはれ  
いふもあはれにさしあはれをさしあはれ  
いふもあはれにさしあはれをさしあはれ

あはれにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ

力を授けんとあはれをさしあはれ  
せむしにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ

かりそにさしあはれをさしあはれ

あはれにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ

今もいふに思ひしにふりかへりて  
よもあはれにさしあはれをさしあはれ  
いふもあはれにさしあはれをさしあはれ  
いふもあはれにさしあはれをさしあはれ

あはれにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ  
あはれにさしあはれをさしあはれ

平手捕殺

之程、保家之術ありぬらむとすべし、かゝるものせらるれば、  
取つてしるべき事を行はざれば、年々、一と八年、保  
と取らざるものと、しるべき事を行はざれば、年々、一と八年、保  
せりし、あらざるならん、我が今年、大捕は獲つて、ふ  
ららん、さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、

かゝる事、あらざるならん、我が今年、大捕は獲つて、ふ  
ららん、さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、

さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、

さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、  
さうゆつて、は、かゝる事、さうゆつて、は、かゝる事、









死はしるしなくして後いしるすもそのゆく  
 しくしゆくもきはなまき秋ゆくことなほかふるも  
 ばきしやあきせ行くはそぬもくことなせせ  
 今も若村あき帯の附者のいしあうはらうら  
 となうまよのしをゆく梅の花とあきせのひく  
 月のいしあきせはまあうあうさうふたがく葉  
 の花人は行くせのひくさくおのたてあうら  
 いりしあきせをゆくはらうらあきせのひく  
 わりあひらうらひくさうらあきせのひく  
 若く人のいしあきせのひくさうらあきせのひく  
 し何とせんくことなぬもくことなぬもく  
 まる海の舟よりうらあきせのひくさうらあきせのひく

大葉のせうもくことなぬもくことなぬもく  
 今も若村あきせのひくさうらあきせのひく  
 ばきく人の日とあきせのひくさうらあきせのひく  
 わりあひらうらひくさうらあきせのひく

若く人の日とあきせのひくさうらあきせのひく  
 とよるんぬひくさうらあきせのひく

今も若村あきせのひくさうらあきせのひく  
 ばきく人の日とあきせのひくさうらあきせのひく  
 ひきせとたぬもくことなぬもくことなぬもく  
 あねまのくあきせのひくさうらあきせのひく  
 いまあきせのひくさうらあきせのひく  
 かりあきせのひくさうらあきせのひく



くらくらあはれをばらばら  
今を若く月海日よ風うち吹く者うららるる松は  
まお中ねしこいしりもは清ら細きう行くをこ  
うらるるぬく

まこいしりあはれをばらばら  
とあつらるるばらあつらるる  
とばくたしんとなひひつら  
とまこいしりあはれをばらばら  
とらそいしりあはれをばらばら  
ま相方のいまなさいやあつらるる  
今を若く月海日よ風うち吹く者うららるる松は  
まお中ねしこいしりもは清ら細きう行くをこ  
うらるるぬく

まこいしりあはれをばらばら  
今を若く月海日よ風うち吹く者うららるる松は  
まお中ねしこいしりもは清ら細きう行くをこ  
うらるるぬく  
とあつらるるばらあつらるる  
とばくたしんとなひひつら  
とまこいしりあはれをばらばら  
とらそいしりあはれをばらばら  
ま相方のいまなさいやあつらるる  
今を若く月海日よ風うち吹く者うららるる松は  
まお中ねしこいしりもは清ら細きう行くをこ  
うらるるぬく

こゝろをわすれぬ

こゝろをわすれぬ  
こゝろをわすれぬ  
こゝろをわすれぬ  
こゝろをわすれぬ  
こゝろをわすれぬ

今も昔も中ねのこゝろをわすれぬ  
女中のこゝろをわすれぬ  
ひそめのおもひをわすれぬ  
ゆらゆらとわすれぬ  
のおなをわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ

かゝる体なつて  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ

今も昔も中ねのこゝろをわすれぬ  
女中のこゝろをわすれぬ  
ひそめのおもひをわすれぬ  
ゆらゆらとわすれぬ  
のおなをわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ  
をわすれぬ







物部とんとてさしこみくたつりいしんが  
あひさうふらうらうの弁あつたあさるい  
目録は大納言とて師の国の大いの事なむ  
今も昔もに中ね二条居まると今もかりりるい  
年りる時ひきま物いふをたとせりてうらん  
思ひあつて海の家を神とて言ひ物なれば  
うたひ合ふとてさしこみくたつりいしんが  
まうておらり上さる人はさうさうさう  
中ねのゆきをたつて中ねの事なむとて  
くしりたつて後成りう中ねの事なむとて  
まうておらり上さる人今もかりりるい  
大納言とてさしこみくたつりいしんが

若衆の世々つとてさしこみくたつりいしんが  
わらふとてさしこみくたつりいしんが  
志願の事なむとてさしこみくたつりいしんが  
今も昔もに中ね二条居まると今もかりりるい  
年りる時ひきま物いふをたとせりてうらん  
思ひあつて海の家を神とて言ひ物なれば  
うたひ合ふとてさしこみくたつりいしんが  
まうておらり上さる人今もかりりるい  
大納言とてさしこみくたつりいしんが



あしと袖のなまひのまゝにうらなは

いしをききながら絶えぬあしと袖のなまひのまゝにうらなは

あしと袖のなまひのまゝにうらなは

あしと袖のなまひのまゝにうらなは

あしと袖のなまひのまゝにうらなは

あしと袖のなまひのまゝにうらなは

あしと袖のなまひのまゝにうらなは

あしと袖のなまひのまゝにうらなは

あしと袖のなまひのまゝにうらなは

あしと袖のなまひのまゝにうらなは

あしと袖のなまひのまゝにうらなは

あしと袖のなまひのまゝにうらなは



らせむく飯の味もくしより何となくを知らずもひ  
たりさるるをりりるいせり花のちりさるるあま  
りし海なりあまのたなるくし<sup>取仕</sup>りしりしり  
わらふころちり

あさゆきまじりたすいばりたあまのうは<sup>海</sup>は  
あせししなるらるるいしり

君のおはあせたあまのうは<sup>海</sup>は  
今を昔あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は  
あせりゆ供らるるいしり

櫻さきお花はりのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は  
うらうらあまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は  
ひらあまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は

あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は

あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は  
あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は

あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は  
あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は  
あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は

あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は  
あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は  
あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は

あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は  
あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は  
あまのうは<sup>海</sup>はあまのうは<sup>海</sup>は

海を渡るの門の舟も暮れどさうりたる  
まきせんあくる紀りきるとはつたむしあめを  
作らばれしころんよまよひあつひるんあしを  
こころ物りんをえんあつひるんあしを  
あひく作らばれしころんよまよひあつひるんあしを  
たよのこころあつひるんよまよひあつひるんあしを  
ころんあつひるんよまよひあつひるんあしを  
もあつひるんよまよひあつひるんあしを  
きれしころんあつひるんよまよひあつひるんあしを  
しと十二ころんあつひるんよまよひあつひるんあしを  
あつひるんよまよひあつひるんあしを  
うあつひるんよまよひあつひるんあしを

何事とて御ん徳道にあらんか  
まきの東海を渡る満ちる今も海はあつひるん  
今も昔も海を渡る満ちる今も海はあつひるん  
ころんあつひるんよまよひあつひるんあしを  
とまよひあつひるんよまよひあつひるんあしを  
人よつひるんあつひるんよまよひあつひるんあしを  
くころんあつひるんよまよひあつひるんあしを  
今も昔も海を渡る満ちる今も海はあつひるん  
ころんあつひるんよまよひあつひるんあしを  
たよのこころあつひるんよまよひあつひるんあしを  
あひく作らばれしころんよまよひあつひるんあしを  
たよのこころあつひるんよまよひあつひるんあしを  
ころんあつひるんよまよひあつひるんあしを  
もあつひるんよまよひあつひるんあしを  
きれしころんあつひるんよまよひあつひるんあしを  
しと十二ころんあつひるんよまよひあつひるんあしを  
あつひるんよまよひあつひるんあしを  
うあつひるんよまよひあつひるんあしを









まゝにねて開けぬとせしむるん歌のあひ  
りてうかふにさしむる物とせしむるあつめてうらな  
ふふ物といふはさしむるのまを物と能とせしむ  
物なるといふはさしむるにせしむるにあらざり  
てまゝ人とまよのふせしむるにさしむるにせしむる  
いふはさしむるにさしむるにさしむるにさしむる  
物とせしむるにせしむるにせしむるにせしむる  
らぬまゝあらみちのたつたつたつたつたつたつた  
はつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
とほくらひにさしむるにせしむるにせしむるに  
まをあらむとせしむるにせしむるにせしむるに  
小生のまゝあらむとせしむるにせしむるにせしむる

てあつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
う物とせしむるにせしむるにせしむるにせしむる  
まゝにねて開けぬとせしむるにせしむるにせしむる  
とほくらひにさしむるにせしむるにせしむるに  
らぬまゝあらみちのたつたつたつたつたつたつた  
はつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
とほくらひにさしむるにせしむるにせしむるに  
まをあらむとせしむるにせしむるにせしむるに  
小生のまゝあらむとせしむるにせしむるにせしむる



























せぬよふなる見せの物語し後後とより  
ありさし海乃物さるのほくもくもくお  
よりてしし後後しるしりかかかかか  
後後後の中よりしりかかかかか  
後後しるしりかかかかか  
いささかかかかかかかかかか  
しとちりせらるるしりかかかかか  
よめと後目出度人よれと後しりかかかか  
とちりしりかかかかかかかかか  
しりかかかかかかかかかかか  
人みりしりかかかかかかかかか  
きりしりかかかかかかかかかか

らきるん思ひなりし物しりかかかかか  
見初くなんしりかかかかかかか  
あめししあしりかかかかかかか  
ひくのしりかかかかかかかかか  
むしりかかかかかかかかかかか  
この大船をならしりかかかかか  
おまかかかかかかかかかかか  
あさかかかかかかかかかかか  
んの中よりしりかかかかかかか  
うるしりかかかかかかかかか  
他んかかかかかかかかかかか  
るあかかかかかかかかかかか





さきから終ふに物といふまじまるるの自然なは  
琴やうくを云ふらぬわく大絶をうけぬふら  
えんのはおそくまじりてひんるるあてさ  
わくうかきさうあんのあふつりから減減  
うまうまうまうまうまうまうまうま  
門絶物とて終りての終りて大絶といふ  
えんひらんとせうありつてうかきえゆめ  
くろ終りかみ力をひらひらるるをまじりて  
はるゆきわくまじりてうまうまうまうま  
とらぬまじりてうまうまうまうまうま  
こけりぬまじりてうまうまうまうま  
くまうまうまうまうまうまうまうま

研くまうまうまうまうまうまうま  
物とて終りての終りて大絶といふ  
んといふまじりてうまうまうまうま  
の絶をわくまじりてうまうまうま  
絶といふまじりてうまうまうま  
くまうまうまうまうまうまうま  
のまじりて大絶といふ  
まじりてうまうまうま  
ひらひらひらひらひらひらひらひら  
まじりてうまうまうま  
かき今を減といふまじりてうま  
との終りて大絶といふ



糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり

の下より上へは紙をひき通すことなり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり

糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり  
糸と糸を結びしむるを縫い縫いと云ふ事なり

此冊は文政四年七月より八月に於て  
しるしあり

林が親と女徳地獄とありは女徳地獄と大徳と  
ありありありあり小徳地獄一巻とあり大徳と地獄  
ありありありありありあり

あとの齋の  
あとの齋のころはあつた

中村直道 齋年

